

平成28年度 番組審議委員会議事録

1. 開催日時： 平成29年3月8日（水）10:00～11:30
2. 開催場所： BBC ワールド ジャパン株式会社 大会議室
3. 番組審議委員： 総数8名 出席委員数5名（欠席委員数3名）

<出席委員>（敬称略・五十音順）

- 委員 小池 政行（日本赤十字看護大学教授）
- 委員 柴原 早苗（放送通訳者・大学講師）
- 委員 高島 肇久（株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構取締役会長）
- 委員 福家 秀紀（駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部教授）
- 委員 マーシャ・クラッカワー（聖心女子大学英語英文学科教授）

※欠席委員

- 委員 豊田 沖人（NHK グローバルメディアサービス・バイリンガルセンター専門委員）
- 委員 フィリップ・ブラウン（学習院大学外国語教育研究センター教授）
- 委員 牧野 琴子（字幕翻訳家）

4. 審議内容

① 下記審議対象番組についてのご意見、ご感想

◆ニュース

「BBC ワールドニュース」ニヶ国語放送 1/30(月)7:00～7:30 放送

◆ドキュメンタリー

「ダッカの忘れられた少女たち」日本語字幕付き放送 1/2(月)1:30～2:00 放送

◆情報番組

「クリック」英語字幕付きニヶ国語放送 2/5(日)22:30～23:00 放送

② その他の番組、チャンネル全体についてのご意見

5. 議事概要

<「BBC ワールドニュース」についてのご意見>

- ・トランプ大統領の「7か国入国禁止」のニュースで、同時通訳は「税関当局が」と訳しているが、ここは「入管当局が」とするのが適切ではなかったか。
- ・フランス大統領選の行方については、とても丁寧に報道していた。今後の展開は分からないが、現在 BBC ではどのような報道がされているのかが分かってよかった。

- ・テニスの全豪オープン決勝のニュースは面白かった。日本だと勝者のニュースだけで終わるが、敗者に時間を取って見せていたので、イギリスらしい、BBCらしい紹介の仕方に大変感心した。
- ・映像の下の方に出ていた「INTERNATIONAL CONCERN」というテロップは、決めつけているという印象を受けたが、後に「INTERNATIONAL REACTION」へ変更して安心して安心した。また、反対意見も紹介していたのはよかった。
- ・途中で「This Week In History」を入れるのは、ワンクッションになって良いと思う。せっかくなので、各出来事より詳しい詳細が、クリックすると出てくるようなシステムがあればもっと良い。瞬間的に紹介するだけでなく、デジタルも使っている展開できると面白いと思った。
- ・フランス大統領選のニュースで統計データが出てきたが、口頭での説明だったので、グラフなどを用いた方がわかりやすいと思った。

<「ダッカの忘れられた少女たち」についてのご意見>

- ・映像はすばらしく、中身も濃いのだが、何を伝えたいのかがわからなかった。14歳～16歳の少女が無理やり結婚させられることを赤裸々に描こうとしたのか、それとも親が貧しくて持参金を持たせることが出来ずに、夫から酷い目に遭うことについて描きたかったのか、よくわからなかった。しかしBBCの女性記者がスラム街へ入り、あのような番組に仕上げたことは、それなりに努力は認められるが、これがベスト・ドキュメンタリーに選ばれるような番組なのかは疑問に思った。
- ・私もこの番組は、何が言いたいかわからなかった。可愛そうなだけの話で、ドキュメンタリーとして勿体ないような気がした。
- ・この番組は、3人の人物が、自分たちのアイデンティティーをこれから身に付けようとしている、とてもポジティブなメッセージだと思った。通常このような番組は、かわいそうなだけの話で終わりがちだが、この番組は同情を買うだけではなく、最後には全員がそれなりの新しいアイデンティティーをつかむという、ポジティブな、久しぶりにいいストーリーだと思った。女性の目と男性の目では見え方が違うのかもしれない。
- ・私の印象として、これは個人の問題ではなく、社会的に解決していかなければいけない問題だったと思うので、そのような視点が入っていればよかったと思う。
- ・学生に見て欲しい番組だと思った。学生と同じくらいの年齢層の方達が出ているので、果たして自分が今着ている服はどこから来ているんだろう、という日常と結びつけるきっかけにこの番組になるのではないかな。そのような意味で、非情に啓蒙的な内容だと思った。
- ・実際に学生に見せたところ、ダッカの少女たちが前向きに生きようとしていたところはポジティブにとらえていた。また、自分たちが日々過ごしているこの日本の生活が、いかに世界の現実と違うのかという印象を持った学生もいた。

- ・日本では女性と子供の貧困、早婚の悲劇というのは実感することが出来ないため、そのところを訴えたのは良かったと思う。
- ・ドローンを使用したと思われる、スラム街を上空からとらえた映像は、初めて見たので面白いと思った。
- ・ダッカという大都会の中に、あのようなスラム街があるというのは、映像的にショックだった。
- ・30分番組では限界があるので、シリーズ化し、彼女たちをもっと長く追いかけてみたら面白いかもしれない。
- ・素晴らしい映像と、それに合ったトーンのキャスターや現地の人々の声そのまま聞けるので、日本語字幕付き放送が個人的に一番良いと思った。
- ・番組自体はもっとポジティブなイメージなので、「Forgotten Girls of Dhaka」というタイトルは、もったいないと思った。

<「クリック」についてのご意見>

- ・見ていて面白かったが、あの番組で新しいことが学べるかということ、なかなか難しい感じがした。
- ・とてもペースが速く、ターゲットは若い層なのかと感じた。
- ・自分が研究している分野だったので、全く面白くなかった。あの分野に関心がある人は、あの程度のことはすでにみんな知っていることなので、もう少しプラスの情報があればいいと思った。
- ・30分の尺の中でいろいろなトピックを扱っているのですが、表面を撫でた感じがあった。これが一体どういうことにつながるのか、といった分析はほとんどなかった。
- ・「クリック」は専門家から見たら深みがなく、若い人を見ると多少面白いが、じっくり見たい人にとっては、次々進んでいくのでわかりづらいのではないかと。

<その他の番組、チャンネル全体についてのご意見>

- ・米大統領選挙の際には各局の開票速報を見比べていたが、BBCは大変丁寧な、しかも内容のある番組を放送していた。ただ、番組からはニューヨークの状況はとてもよくわかって参考になったが、イギリス国内の反応、ヨーロッパにおける反応をもう少し紹介した方が、BBCらしい番組になったと思う。
- ・個人的にニュースはNHKスピードが一番心地よいので、BBCのニュースは英語で見る分にはいいが、同時通訳した日本語で見ると情報量が多すぎる。一方、BBCのドキュメンタリーは濃密度の違いからか、早いペースの方が楽しめる。逆に日本のドキュメンタリーはすごく長く感じる。

<ご欠席された委員からのご意見>

- ・日本語字幕制作がオンエアに間に合わない番組に、英語字幕がつくのはとてもいいと思う。英語学習者には、聞き取りのサポートとなる。

以上